

ASTEM NEWS

NO. **63**
2010. Dec.

新しくなりました!
リニューアル号



[特集] 座談会

京都のまちにとって 「夢」のあるASTEMへ



【座談会】京都のまちにとって「夢」のあるASTEMへ —京都市中小企業支援センター との統合を終えて—

2009(平成21)年10月1日にASTEMは(財)京都市中小企業支援センターと組織統合を行いました。2010(平成22)年4月には立地的にも統合し、創業まもないベンチャー企業から成熟した中小企業まで一貫した支援ができる組織として、更なる産業支援機能の強化に取り組んでいます。今回は、高木壽一理事長のもとに各部から職員が集まり、立地的統合から半年を迎えての変化、そして新ASTEMが目指すべきビジョンについて思いを語り合いました。



大黒:早速ですが、ASTEMと京都市中小企業支援センターの組織統合から1年、そして立地的統合から半年が経過しました。まずは、理事長から率直なところをお伺いしたいと思います。

高木:今は、この統合によって、どういことが京都の企業にとってプラスになるのかを考え始めたところだと思います。ですから特にどちらにいたから、ということに関わらず、これからのASTEMを担っていく人たちがどういことを考え

ておられるのかをぜひ聞きたいですね。

川上:私が所属している連携支援グループでは、実際に支援センターの職員の方やコーディネータの方と、一緒に仕事を進めています。やはり、組織的統合よりもこうして一緒になったことによって、少しずつつながりができはじめているという印象があります。例えば、10月に滋賀県長浜市で行われた環境分野の展示会「びわ湖環境ビジネスメッセ」では、支援センターのコーディネータの方から

企業を紹介していただき、これまでになかった分野の企業とつながりができました。これからもそういう機会がますます増えていくのではないかと思います。

内海:ASTEMには「新しい事業の創出を支援する」という役割があります。これまで、大学との連携を強みに、産学のパイプ役として皆様のお役に立てるよう取り組んできました。一方、支援センターは成熟した企業に対する経営支援を得意としていて、それぞれのお客様



理事長
高木 壽一



事務局長
大黒 康史



産学連携事業部 連携支援グループ
京都バイオシティ構想推進事業担当 主任
川上 素司



総務部 主任
内海 絵理子



経営支援部
京都市中小企業支援センター
藤井 泰孝

は少し異なっていました。統合をきっかけに、今までASTEMをご存知なかった方にもASTEMの存在を知っていただき、気軽にご利用いただけるように心がけていきたいと思えます。

大黒:少し結婚に似ていますね。魅かれあったふたりが結ばれて、新しい家族を形成していくような。

高木:別々の組織が一緒になるその一番のメリットはそれぞれが持っていた「お得意さん」が共有できることなん



です。一般的に合併組織の運営は、難しいこともたくさんある。でもやはりお得意さんが増えたということを最大のメリットにして、それぞれの分野で大きな目標に向かって進んでほしい、と強く思っています。

内海:お客様に提供できるサービスの幅も広がりました。一カ所で幅広い内容の支援策をご利用いただけます。

高木:そうですね。ものであれば、より多く売れる。サービスであれば、サービスをより多く利用してもらえる、ということになりますからね。ぜひこの機会を最高のビジネスチャンスとして、これまで以上に目標を大きくして、それを達成していただきたいですね。

大黒:ASTEMで提供できるサービスが増えるという数の面だけでなく、ソフトの面でどれだけ企業の皆様の期待に応えられるかも重要ですね。

高木:一番必要なことは情報の共有です。それを実行していくために、現場でもっと交流して、話し合える環境づくりを心掛けてほしいと思います。ビジネスと呼べるものはすべて顧客が関わることなんですよ。どれだけ顧客志向であるかということ。ASTEMにとっての顧客は京都にある企業すべてというのが目標です。ASTEMに相談に来られたら、その企業がどうしたら元気になるのか、その目的に向かって人的な資源もサービスメニューも全部集中して、何とか元気になってもらおう、と担当の人が考えられるかどうか、先ほど言った情報が共有できるかどうかという鍵だと思うんです。具体的に仕事をしている人がそのことだけに全部集中して取り組めれば、おそらくその人はその1件を通じてかなりの情報を共有できたことになる。次の機会にはそれを全部



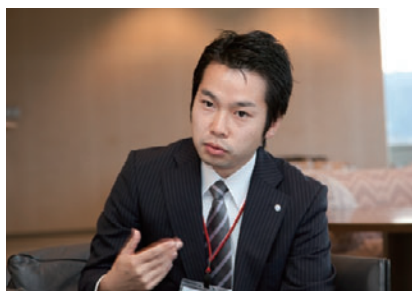
発揮することができる。そうやって自分が多くの情報を持つことで、自分自身が資源になる。そういうことを皆実践しようとするような心構えになってもらうだけで、すごく変わるような気がするんですね。

内海:そうですね。この企業のために何ができるだろうと考えた時に、その選択肢が広がったということですので、その意識を持っていけば、私たちも積極的に情報収集をしますし、それによって連携も取れていき、お客様にも満足していただけたと思います。

高木:本当に、こうなってほしいASTEMというのは、すごく単純なんです。「うちの会社どないしたらええんやろか」とお客様が相談に来られた時に、絶対儲かるようにする。そういうASTEMだったら、目的は達成できていると思うんです。総務の人は事業に直接は関わらないけれど、そういうことができるように組織を運営していただきたい。

大黒:目的が一緒ですから一体感も形成されていきますね。藤井さんは金融という側面からたくさんのお客様の方と寄り添ってこられました。これまでと違った印象を感じられたことはありますか？

藤井:私は支援センターからこちらへ来たのですが、窓口に来られたお客様に対して、金融関連であれば、われわれ金融相談の担当と一緒に入って相談の。経営関連であれば、中小企業診



断士の先生も一緒に入って相談にのる。技術的な話であれば産学連携事業部の力を借りるとか、そういう連携のケースが少しずつ増えているな、という印象があります。経営の問題というのは決してひとつではないので、どこまで一番最初の窓口である私たち支援センターの人間が気づけるのかということが一番大きいところだと思います。こちらが気づくことさえできれば、組織統合により提案できるメニューが充実しましたからね。そういう意味で私たち自身のレベルアップも図らないといけないですし、例えば私の例でいえば、技術相談をいただいて初めて、どの人に相談したらいいんだろうかと具体的に考えはじめました。自分の周りにあることでも、具体的な案件が出てこないとなかなか見えにくい部分もあるので、やはりアンテナを高くして、日頃からお客様に役立つ情報をキャッチしておくことが大事だと思いました。

大黒:今後のASTEMということについてはいかがですか。



川上:ASTEMの特徴を活かしてという話なんですけども、公益法人の評価について以前理事長が、「関わった方がどれだけ幸せに感じたか」で評価されるのが一番究極的な評価ではないか、ということをお話しされていたんですが、そういうことを感じてもらえると、支持者が増えていくんじゃないかなと思うんですね。今は企業でさえ、いかに社会貢献をしているかが問われる時代になってきましたから、ASTEMを通じて社会貢献を企業ができるような、そういう仕組みをつくっていかないと考えています。

大黒:10月からは新たに産業技術研究所もオープンして、KRP地区に産業支援機関がより集積してきました。それぞれの持ち味が活かされ、得意の分野で効果的な施策の展開ができるよう、ASTEMも地に足がついた存在感のある組織になっていけたら素晴らしいですね。ひとはものに対する優しさとか慈しみとか、こだわりがあると思うんです。それは、ものをつくること、サービスを

提供すること、商いについてもそうですが、ひとが働いていて、生かされていて、そこにものやサービスが産まれてひとは豊かにつながっていくからだと思うんです。ですから、京都の産業が元気になって、少しでも市民の皆さんのお役に立てるように、できることをしっかりやる組織でありたいと思います。最後に理事長、一言お願いします。

高木:地域主権が実現し、定着するためには、一定の経済力がなければなりません。ASTEMがあるからこそ京都は安定した地域主権の時代を迎えられる。そういうASTEMが私の理想です。ASTEMに関わっている企業はそのこと自体がある種のプレステージになる。そして、ASTEMで働く人たちは、そのことがその人の誇りになるような組織であれば素晴らしいと思います。皆さんに実際にそれぞれの仕事をしてもらうことで、今日のASTEMがあるわけです。そして明日のASTEMも皆さんの今日の仕事で決まります。そういう点では非常に感謝をしていますし、期待もしています。今は、とにかくASTEMに来た方に喜んでもらう。そして喜んでもらうための引き出しを現場の皆さんがどれだけ増やしていけるかにすべてかかっています。ぜひ頑張ってくださいと思います。

—どうもありがとうございました。

これからのアステム



所長
中村 行宏

「お客様(相談者)の実情に沿った道案内をする中小企業支援センター」と「お客様の必要とするソリューションを自らの技術力で生み出すことのできる研究開発本部」が一つの組織として統合されたことはASTEMの働きに大きな質的向上をもたらしました。一層の貢献を目指します。



専務理事
白須 正

専務理事に就任して4年、ASTEMはICTの活用促進、研究開発の推進、新事業の創出等、京都産業活性化の取組を積極的に進め、今では職員数150名を超える我が国最大規模の産業支援機関になりました。この総合力を活かし、京都企業の皆様のご期待に応えたいと思います。

さらにパワーアップした マッチング事業

京都市中小企業支援センターでは、平成17年度から21年度まで縁むすびプロジェクトと題し、京都市内のものづくり企業を対象にマッチング事業を行ってきました。これは、2003(平成15)年に市内9,600社の企業に実施した「ものづくり産業調査」において明らかになった、京都の企業の特徴—技術力はあるが販売力が弱い—を受けて、販路開拓や技術提携の支援により、ものづくり企業を積極的に応援しようとしたものです。

5年間の計画で行われた縁むすびプロジェクトは、当初予定どおり平成21年度末で終了を迎えました。しかし、専門のコーディネータによる訪問企業社数は1,149社を数え、また、中小企業の方からご好評をいただいていたこともあり、平成22年度からは中小企業パワーアッププロジェクト※・パワーアップマッチングとして継続することとしました。5年間の実績をもとに、以前から要望の高かった、大企業とのマッチングや他都市の企業との広域マッチングにも力を入れるべく現在、取組を進めています。

※企業訪問により経営課題の発掘から解決まで継続的にサポートする事業。

マッチング報告

中小企業の優れた技術や製品を大企業に直接アピールする場を提供し、大企業との取引拡大をサポートする「大企業マッチング事業」の一環として、京都市中小企業支援センターでは、7月と9月に、大企業とのマッチングを行いました。

7月27日(火)

京都水族館(仮称) マッチング会

2012(平成24)年初頭梅小路公園にて開業を予定している「(仮称)京都水族館」。今回、水族館を設置するオリックス不動産株式会社から、京都のベンチャー企業や中小企業の技術や製品を活かした水族館をつくりたいと京都市



建設設備関連、デザイン、ソフト、ミュージアムグッズの4つのカテゴリで企業PRを行っていただきました。



企業プレゼンテーションの様子

に相談があり、「京都市ベンチャー企業目利き委員会」、「バリュークリエーション支援制度」の認定企業の中から応募のあった42社との商談会を開催しました。企業紹介ブースのほか、1社当たり10分のプレゼンテーション時間を設け、オリックス不動産株式会社をはじめ、「(仮称)京都水族館」に関係する企業に対して、自社のPRを行っていただきました。マッチングの成果が期待されています。

9月28日(火)

シャープ株式会社とのマッチング

「滋賀・京都 技術展示会」(共催事業)と称して、京都と滋賀の中小企業各10社が、奈良県天理市のシャープ総合開発センター内で、展示会を開催しました。

REPORT

経営支援部
京都市中小企業支援センター
次長 中澤 研治



9号館OPEN

2010年10月、京都リサーチパークに京都らしさが感じられる
ハイスペックなオフィスビル「KRP9号館」がオープンしました。

KRP9号館テナント募集

KRP9号館のお問合せは TEL 075-315-9333

詳しくはWEBで

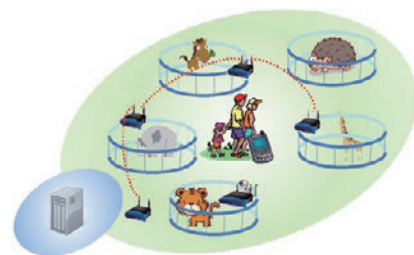
KRP



京都リサーチパーク株式会社

〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93

未来の都市型動物園を形成するネットワーク基盤を構築 ICTによる「みんなで楽しく 学べる動物園」への取組



園内の変化や用途に合わせた 柔軟性・汎用性を提供

今回の取組では、有線と無線を組み合わせたメッシュネットワーク※2を基本として、柔軟性の高い園内ネットワークのシステムを整備しました。このネットワークにより、屋内を含む園内ほぼ全域から安定した映像の録画・配信が可能になっています。また、リニューアル期間中でもサービスの継続が可能です。これにより、iPhoneなどで配信している動物の映像コンテンツの充実やイベント開催時のライブ配信、ネットワークを活用した新サービスなどを充実させる基盤が形成されました。

iPhoneアプリについては、8月には来園者の方へ端末をレンタルしてご試用いただき、アンケート調査を行いました。その際いただいた多くの貴重なご意見に基づき、10月27日には新しいバージョンをリリースしました。今回反映できなかったご意見も含め、引き続き改善を図ってまいります。

今後、園内のリニューアルと連携してコンテンツ整備を進めつつ、自然環境教育・生命の教育のための学校等での活用など、今回整備した基盤の一層の活用にも取り組んでいきたいと考えています。

※2…通信機能を持った端末同士が相互に通信を行うことにより、網の目(mesh)状に形成された通信ネットワーク。

REPORT

研究開発本部
副主任研究員
吉田 信明



リニューアルの礎となるシステムを構築

京都市岡崎にある京都市動物園では、その構想コンセプトのひとつである「楽しく学べる動物園」をサポートするためのICTシステムの構築に取り組みました。

【主な実施項目】

1. WEBサイト「サイバー京都市動物園」のオープン
3Dで実際に園内を廻ることができる、「サイバー京都市動物園」を開発。インターネットでご覧になる方に京都市動物園に興味を持っていただき、リニューアル後の姿も知ってもらうための動物園コンテンツとして設置しました。



2. iPhoneによる園内ナビゲーションシステム「野生への窓」の開発

命の教育・自然環境教育の一環として、来園した方が、スタンプラリーやクイズなどを楽しみながら動物のことをもっとよく知っていただけるiPhoneアプリを開発しました。App Storeから無料でダウンロードいただけます(「京都市動物園」で検索)。



3. 園内ネットワークシステムの構築

無線を活用して園内ほぼ全域でネットワーク利用が可能になりました。動物たちの映像コンテンツの収集やライブ配信など、様々な新しいサービスの基盤ができました。



4. 既存のWEBページの多国語化

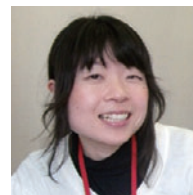
既存のWEBサイトをもとに英語・中国語・韓国語のサイトを構築。動物の説明等も含めてほぼ日本語ページと変わらない内容のコンテンツを掲載しました。



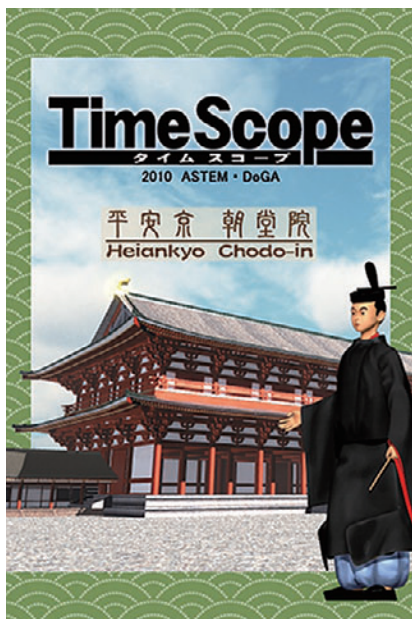
そのほか京都駅地下コンコースにデジタルサイネージ※1設置を行い、動物園の最新情報をリアルタイムで発信。誘客の一環として活用しています。

※1…電子看板。従来のポスターや看板と異なり、通信ネットワークを利用することで、表示内容をリアルタイムで更新したり、動画を含んだ広告や複数の広告を配信したりすることができる。

REPORT



研究開発本部
主任 澤田 砂織



GPSと画像コンテンツを利用し、
立った場所の町並みを再現します。

平安時代の朝堂院が現代によみがえる!

iPhoneアプリ 「タイムスコープ」を開発

ASTEMでは地元のIT企業からエンジニアを募り、シナジー効果を活用して高い技術力でiPhoneアプリケーション開発を行うプロジェクトとして、様々なアプリケーションの開発を行っています。今回はその中から「タイムスコープ」をご紹介します。

1200年前の町並みを 現代に再現

ASTEMではこのたび京都の歴史的遺産を現代によみがえらせるiPhoneアプリ「タイムスコープ」を開発しました。タイムスコープとは、利用者の立っている位置と、現在向いている方向に応じ

て、過去(未来)の町並みを再現するシステムです。今回は、京都市の歴史遺産の中から平安時代初期の朝堂院(現在の千本丸太町付近)を再現。App Storeから無料でダウンロードできます。

また、DIGITAL CONTENTS EXPO 2010への出展を行いました。



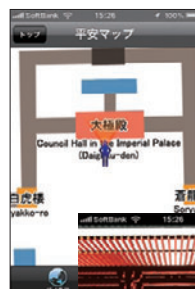
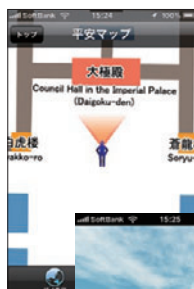
民間企業の方と一体となって
開発に取り組みます



iPhoneを目の前にかざすと平安時代の朝堂院が浮かび上がります



画面に表示される建物にタッチすると詳細情報を見ることができます



歩くことで画像が切り替わります(GPSの誤差がでないようポイントは66か所に設置)

建物の裏側も見ることができます

新しい観光資源としての 活用に期待

京都市内には朝堂院のように、現存していない史跡も数多く存在しています。タイムスコープを活用していただくことで、新たな観光資源の掘り起こし

や、京都に点在する観光地から観光地を線でつなぐ役割を果たすことができると考えます。今後は音声導入や多国語展開も視野に入れ、ビジネスモデルを構築していく予定です。

第5回バイオ材料プロジェクト 「次世代のライフスタイルを 支えるバイオ材料の飛躍開発 を目指して」発表交流会

2010(平成22)年9月14日(火) 京都工芸繊維大学 60周年記念ホール

バイオ材料におけるネットワーク形成を目的とした第5回バイオ材料プロジェクトが京都工芸繊維大学で開催されました。今回は京都工芸繊維大学の木村良晴先生に全体コーディネートをお願いし、「次世代のライフスタイルを支えるバイオ材料の飛躍開発を目指して」というテーマで、大学・公的機関の研究者及び企業の技術者による講演に全国各地から241名もの方にご参加いただきました。バイオ材料の研究開発における、京都の高いリーダー性を改めて認識するとともに、大学、企業、公的機関での研究開発意欲を増すきっかけとなったのではないのでしょうか。今後も継続して発表交流会を行い、グリーン・イノベーションによる産業科学技術の創出につなげていきたいと考えています。



INTERVIEW

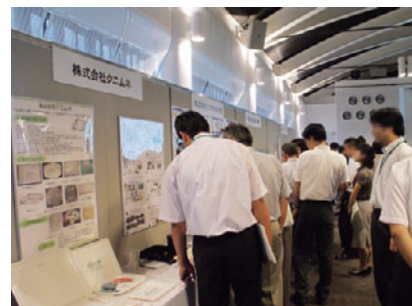
京都工芸繊維大学 繊維科学センター長
大学院工学科学研究科
バイオベースマテリアル学部門
木村良晴 教授
(財)京都高度技術研究所 副所長)

次世代を担うバイオ材料の 開発を京都から

バイオ材料というのは持続可能な循環型社会の実現、そしてビジネスとしても非常に重要な位置づけにあります。今回の発表交流会は「次世代のライフスタイルを支えるバイオ材料の飛躍開発を目指して」というテーマで行いましたが、東京をはじめ全国から多くの企業に参加いただきました。今回はバイオ材料を研究・開発する企業だけでなく、それを利用するユーザー企業の参加も目立ち、情報を求めて積極的に参加され

ている印象がありました。それはつまり京都がバイオ材料の分野をリードする立場にあることを示していると思います。

大企業のバイオベース開発は、今年に入ってから特に活発な動きを見せています。バイオ分野が期待されている証拠だといえますが、開発の中心は大企業がほとんどで、中小企業の参画は難しい状況です。ポリ乳酸はバイオ由来の材料として注目を集めていますが、このひとつの素材だけで私がイメージするような産業の広がりには残念ながらなりません。もう少し多種類の素材の開



発が進めば素材間の棲み分けも進み、より広範な市場に材料として出ていくのではないのでしょうか。京都では、特に繊維業界でもバイオ素材を用いたテーマが出てくると思っています。そこから染色や繊維加工にも派生していければ、産業の大きな発展が望めます。感度の高い企業が多いのも京都の特徴ですから、もっとオープンに各企業が協力していくことを期待しています。

来年以降には電気自動車、ハイブリッドカーが本格的に市場に出てきます。それは生活スタイル全体に影響を及ぼす大きな変化をもたらすでしょう。その変化に対応した生活素材・材料も、やはりバイオの分野から開発されてくると思います。それが今回の発表交流会の大きなコンセプトでもありました。京都は世界的に見ても材料関連研究のレベルが高い都市です。京都の街全体が材料開発のリーダーとなり、21世紀における材料の新しいパラダイムを構築していきたいと考えています。

—バイオの基礎知識から習得したい方へ— 社会人のための バイオ入門講座開講



講師：谷田 清一 (財)京都高度技術研究所 医工薬産学公連携支援グループ・アドバイザー



ASTEMでは「京都バイオシティ構想」に基づき、バイオ分野の研究開発支援、産学マッチング事業、販路開拓支援などを京都市と連携して進めています。平成22年度からは、医療産業振興に重点を置いた医学・工学・薬学分野の産学連携支援事業を開始しましたが、京都での革新的な医療機器や医薬品開発を促進するためには、医・工・薬の融合領域をサポートできる人材の育成が不可欠だと考えています。

そこで今回、“これまで体系的に学んでこなかった「バイオ」の基本的知識を学びたい”という社会人を対象とした「社会人のためのバイオ入門講座」(全4回)を企画し、その第1回目の講座を10月29日(金)に行いました。

京都のバイオ産業を支える人材を

第1回目この日は、28名の社会人の皆さんにご参加いただき、「ゲノムの基礎」、「ゲノム関連技術の基礎と応用」をテーマとした講義が行われました。講師の谷田先生からは、「現在の日本は社会と科学技術を仲立ちする人材が質・量ともに不足している、という文部科学省の調査データが出ており、バイオも例外ではない。新成長戦略が始動し、バイオ産業は今後ますます発展すると期待される一方で、バイオと社会を仲立ちする人材の不足が予想される。今回の講座はそのような現状に対して少しでも側面から支える役割が果たせればと考えている。」と開講に当たったの抱負が述べられました。

そして、講義の途中でも気になることがあればいつでも気軽に質問できる和

やかな雰囲気の中、初回の講義が進められました。

ゲノムの基礎について 理解を深める

講義の前半はゲノム研究の歴史、DNAの二重らせん構造、遺伝情報の流れなど、ゲノムの基礎について、また、後半は「特定の遺伝子の発現を抑えるRNA干渉」や「後天的に遺伝子の発現を抑えるエピジェネティクス」などゲノム学の最新トピックスに重点が置かれた講義となりました。ゲノム学の最新情報に対してはもちろんのこと、基本的な遺伝子発現メカニズムや専門用語に関しても活発な質疑応答が行われ、非常に質の高い充実した学習の場となったようです。

なお、今後の3回の講座では、細胞の全体像に迫る「細胞の営み」、バイオ

医薬品や新薬開発研究の現状を解説する「疾患とバイオ」、生活習慣病や機能性食品の話題を盛り込んだ「食とバイオ」などをテーマに講義が行われる予定です。

本講座が参加者の研究開発活動、マーケティング活動などの一助となることを期待するとともに、京都のバイオ産業振興支援の一翼を担っていきたいと考えています。

REPORT

産学連携事業部
医工薬産学公連携支援
グループ
プロジェクトマネージャー
内田 由美子





文部科学省「京都環境ナノクラスター」 地域人材育成プログラム

京都半導体塾 「ダイオード」開催

「京都環境ナノクラスター」は、京都およびけいはんな学研地域に、ナノテクノロジーを基盤技術として地域の産業発展や環境・エネルギー問題への貢献を目指したクラスター形成を目的とする事業です。その事業の一環である「京都半導体塾」が6月1・8・15日の全3回行われました。

半導体工学の核心に迫る 教育プログラム

中小企業やベンチャー企業の技術者を対象とした人材育成プログラムである「京都半導体塾」では、京都大学須田淳准教授のご協力のもと、ダイオード、トランジスタといった半導体デバイスの基礎理解を目的として少人数・塾形式のセミナーを行ってきました。双方向の議論、活発な質疑応答を主体にした当セミナーで、半導体デバイスに対する基礎理論を深めることは、日々の研究や開発の現場において、困難な課題を解決する局面や新規研究開発テーマに取り組むときの大きな原動力となり、受講者から大変ご好評をいただいています。

今回のセミナーでは、話題の新材料をダイオード理論から議論するという内容で受講者を募集。今後の事業化にも深く関わる講義内容に定員を上回る30

名もの受講希望者があり、関西一円から参加されました。

事業化が期待される新材料を ダイオード理論の応用から講義

今回の講義では、新材料として期待されるシリコンカーバイド (SiC)、窒素ガリウム (GaN) 等を話題に取り入れ、世の中で普及しているダイオード製品がなぜ様々な技術に応用されているのかということ为基础理論から一問一答形式で研学。京都環境ナノクラスターでも最近研究開発に成功し、商品化が進められている、省エネルギーを実現するダイオードの特性などについても理解を深めました。

長年新材料を研究してこられた須田先生の実体験を交えた授業に、これまで以上に活発な質疑応答が行われ、非常に内容の濃い熱のこもったセミナーとなりました。最終日に開催された交流会にも多くの受講生に参加いただき、盛会裡のうちに幕を閉じました。

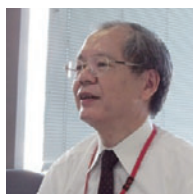
自ら学び、成長する機会を 提供する

平成19年度から始まった当セミナーは、最近では参画企業から新人教育の一環として参画したいというお話もいただくようになりました。他に例のない非常に質の高い内容をマンツーマンかつ無料で学べる機会が希少なことから、企業のOJTとして、当セミナーは大変実用性の高い、付加価値の高い内容を提供している点が評価されたものと考えています。

次の段階では電子回路で増幅、またはスイッチングをする「トランジスタ」をテーマにした講義を想定しています。次回の開催日は未定ですが、より実用性の高いテーマになりますので、今回同様、多くの企業の皆さまに「京都半導体塾」の知の財産をご活用いただきますようお願い致します。

REPORT

科学技術コーディネータ
大浦 俊彦



REPORT

新事業創出支援部
コーディネータ
牧野 成将



新任コーディネータ紹介

新事業創出支援部では4月より新たに2名のコーディネータを迎えました。

コーディネータ

吉田耕治

ASTEMでは主に研究開発型のスタートアップベンチャー企業や、新規事業を展開する中小企業の支援を行っています。京都は起業家のネットワークが充実しており、ベンチャーの成長する基盤が整っている土地です。特に「有ったら良いな」ではなく「無ければ困る」技術は、マーケットとしては小さくても事業として確実に広がる可能性を持っています。元気の良い企業が育つ街「京都」となるよう、新事業を目指す皆様をサポートしていきたいと思えます。



ベンチャー企業
育成マネージャー

長瀬博昭

「京都市ベンチャー企業目利き委員会」の申請に選ばれた企業に対しての支援とAランク認定を受けられた企業への支援を主にしています。資金調達や市場調査などのコーディネートを行うことで、優秀な技術や事業を持っておられる企業の成長の一助となるよう日々取り組んでいます。まずはどんどんチャレンジしていただき、京都発のベンチャーがますます活発化できればと思います。



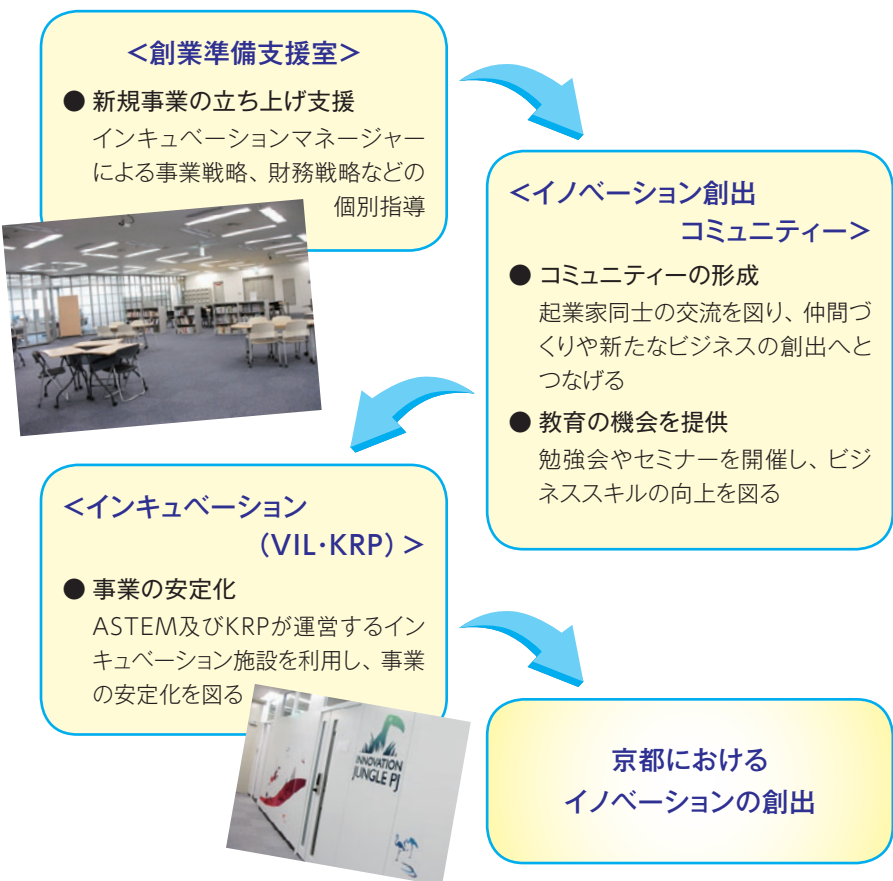
イノベーション創出 コミュニティのご案内

ASTEMでは2010(平成22)年4月より、起業家予備軍や起業家の方々、産学・産産連携などを通じた新規の事業展開を考える企業の方々の活動拠点として、イノベーション創出コミュニティをオープンしました。

会員制のバーチャルオフィスは、月額10,000円で365日24時間の使用が可能。コピー・プリンター・FAX等の複合機のほか、共用のミーティングスペースや商談スペースも設けています。イニシャルコストをかけずにオフィス開発ができるスペースとビジネス環境を提供することで、京都におけるイノベーションの創出を目指します。

また、バーチャルオフィス内の創業準備支援室では原則3か月という期間を設け、4人のインキュベーションマネージャーによるフルサポートで事業の立ち上げを支援。ASTEMが京都におけるベンチャー企業支援のパイオニアとなるよう、今後も新たな取組を行っていきたく考えています。

ASTEMが目指すもの



賛 助 会 員 紹 介

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| A ■ 大阪ガス株式会社 | ■ 株式会社総合システムサービス |
| ■ オムロン株式会社 | T ■ 大日本スクリーン製造株式会社 |
| K ■ 株式会社片岡製作所 | ■ 株式会社太洋堂 |
| ■ 関西電力株式会社 | ■ TOWA株式会社 |
| ■ 関西ブロードバンド株式会社 | ■ 株式会社富永製作所 |
| ■ 木津屋橋武田病院 | N ■ 日本新薬株式会社 |
| ■ 株式会社京信システムサービス | ■ 日本電気化学株式会社 |
| ■ 京都機械工具株式会社 | ■ 株式会社日本電算機標準 |
| ■ 財団法人京都産業 21 | H ■ 社団法人発明協会京都支部 |
| ■ 京都樹脂精工株式会社 | ■ 福田金属箔粉工業株式会社 |
| ■ 株式会社京都ソフトウェアリサーチ | ■ 株式会社堀場エステック |
| ■ 京都電子工業株式会社 | ■ 株式会社堀場製作所 |
| ■ 京都リサーチパーク株式会社 | M ■ 村田機械株式会社 |
| ■ 株式会社ゴビ | ■ 株式会社村田製作所 |
| S ■ サムコ株式会社 | ■ メテック北村株式会社 |
| ■ 株式会社島津製作所 | R ■ ローム株式会社 |
| ■ 株式会社写真化学 | W ■ 和研薬株式会社 |
| ■ 星和テクノロジー株式会社 | ■ 株式会社ワコールホールディングス |
| ■ 星和電機株式会社 | |

編集後記

ASTEM NEWSリニューアル号いかがでしたか？ 今回のテーマは、「現場職員の顔が見えるASTEM NEWS」でした。写真撮影に慣れていないせいか、ちょっと表情が硬かったかもしれませんね(笑)。これからも統合により支援策が充実したASTEMをより身近に感じていただけるよう職員一丸となって頑張っております。

ASTEM NEWS 第63号 2010(平成22)年 12月発行

発行 財団法人京都高度技術研究所 総務部
©ASTEM 制作/アド・アソシエイツ株式会社

財団法人京都高度技術研究所

Address 〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134番地
TEL 075-315-3625(代) URL <http://www.astem.or.jp/>
FAX 075-315-3614 Email info@astem.or.jp

